



風間 杜夫さん

プロフィール

一九四九年、東京生まれ。つかこうへい事務所を経て、舞台・映画・TVにと活躍。映画「蒲田行進曲」でアカデミー賞優秀助演賞受賞。映画「人生劇場」陽暉楼「異人たちの夏」やTV「スチューデス物語」等でおなじみ。

いつも白紙の役者でありたいですね。

県立劇場自主文化事業の一環として二月二十日に公演の行われた「人間合格」(こまつ座・井上ひさし作)で、主人公・津島修治(太宰治)を演じた風間杜夫さんに、熊本の印象や今回の芝居についてお話を伺いました。

「熊本へは何度か来られたと思いますが、どんな印象をお持ちですか。」

つか劇団の公演や熊本映画祭などで何度か来てはいるんですが、いつも慌ただしく、ゆつくり町を散策する時間がないんです。お城の周辺をちよっと歩いたくらいですけど、とても良い穏やかな土地柄だなと思いました。それと馬刺し、あれは旨いですね。八年前かな、初めて来たときにごちそうになったんですが、スタミナがつきそうで気に入ってます。焼酎も好きだし、以来馬刺しはよく食べるようになってきました。

「今回の旅公演はどのくらい楽しかったですか。」

全部で二十六ステージです。北海道からスタートして、九州は宮崎から回っています。九州は底抜けに明るくて開放的というのか、お客の反応が凄くて、初めから芝居に食らいついてくるような熱気を感じますね。こちらも勢いテンションがあがって熱がこもりま

「公演中は特に体の管理が大変ですね。」

昼間はだいたいホテルで休んでいます。もともとあまり歩かないたちなんです。公演後飲みに出て、翌日はその酒のせいで寝てるというパターン(笑)。芝居は結構体力使いますから、サウナに行ったり腕立て伏せや腹筋くらい

あまり太宰を意識するということはないですね。実際は無頼のイメージがあるけれど、この太宰は優柔不断で自分を探しあぐねている。そういうところ

って自分かなり近いものがあるんです。どんな役をやるときもそうですが、自分との共通項を見つけてその部分を



舞台「人間合格」のワンシーン

はやってますけど。東京にいるときはスポーツクラブでよく泳ぎますね。

「今回、津島修治(太宰治)役をなさるにあたっての苦労などをお聞かせ下さい。」

太宰の作品や関連の本を読みましたが、井上先生の台本の太宰は実際の太宰のイメージを脱却していますから、

デフォルメした役づくりをしているという感じですね。僕はまるつきり違う人演じるのってできないんじゃないかと思えますね。

「蒲田行進曲の銀ちゃんなんかすごくわがままな役だったから私生活でもそれを引きずってる部分があつて、女



房が電気の玉が切れたから替えてくれなんていうと「スターがそんなことできるかよ。指突っ込んで感電したらどうするんだ」なんて言ってた(笑)。かと思うと「スチューデス物語」の教官やつてるときはまた人格が変わって、えらく真面目くさったこと言っていましたしね。結局どの役にも自分と似たところがあつてどれが自分か分からないという感じですね。

「これからはどんな役をなりたいですか。」

何をやりたいというより、いつも白紙の役者でありたいと思っています。演出家や作家なり周りの人間が、風間にこんな役をやらせたいというような新鮮さを失わずにいたいと思いますね。基本的に演じることは好きですが、やはり生身の体を見ていただく舞台が一番好きですね。演じているときの生きてるんだという充実感があまりません。出の前はいつもイヤだなと思うんですが、幕が下りたときはやって良かったと思う。緊張と解放の落差の激しいこの生活がとても好きなんです。これに取り付かれるとなかなか芝居はやめられませんね。